

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2
学年	2年	類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	新編 論理国語 (東京書籍)				
副教材(出版社)	新編 論理国語学習課題ノート・小説三選付属版 (東京書籍)				
授業の概要	1 講義やグループ活動を通して、論理的な文章や実用的な文章の読み方を学ぶ。 2 論点を整理して読み、自分の考えを深めて論述したり討論したりする。				
授業の目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的・批判的に考える力、創造的に考える力を伸ばす。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・論理とは何か(論理の力) 1 広がる風景 ・対話とは何か ・論理の力を鍛えよう 2 考える手がかり ・少女たちの「ひろしま」 ・つなげる力(論理の力)、要約する力(論理の力)、言葉の扉① 3 人間と知性 ・学ぶことと人間の知恵 ・資料を整理し、テーマで吟味しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉と言葉が的確に関連し合う「論理」の重要性を理解する。 ・筆者の考える「対話」の意義について理解を深める。 ・筋道立っている文章に必要なものを理解する。 ・筆者の主張を踏まえ、戦時下の人々の日常やその時代の社会と自分との接点について考えを深める。 ・問いと答えの構造に注目して、中心的主張を的確に捉える。 ・本来とは異なる意味で用いられやすいことわざや慣用句について理解する。 ・学ぶことの意義について、筆者の主張を「コンピューター」と「人間」を比較したうえで読み取る。 ・資料を整理して立場の違いによる主張や論拠の違い、問題意識の違いなどを対比的に検討する。 		
	2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ラップトップを抱えた「石器人」 ・文章を読み比べるために、論証する力(論理の力) 4 現実の中で ・思考の肺活量 ・質問する力(論理の力)、考える楽しみ① 5 ものの見方 ・弱肉強食は自然の摂理か ・複数の「わたし」 	<ul style="list-style-type: none"> ・事実と主張の関係に注意して文章を読み、人間の脳の働きについて考える。 ・文章の読み比べ方を学び、複数の文章を比較して考えを深める。 ・論証の適切さを判断する方法を学び、説得力のある論証や反論を行う力を養う。 ・筆者の主張と例示の関係を理解する。 ・論理的文章の内容を検討させ、観点を押さえた適切な質問を考える。 ・言葉の持つ可能性と限界について考える。 ・実験結果と筆者の主張を整理して、論理の展開方法を理解する。 ・筆者の主張を読み取ったうえで、その根拠の妥当性を検討する。 		
	3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 6 はたらくよろこび ・はじめに「言葉」がある、 ・楽に働くこと、楽しく働くこと ・鉄、千年のいのち ・言葉の扉② 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の仕事の経験を手がかりにして、働くことと言葉の関わりについて考える。 ・「働くよろこび」について、筆者の考えを踏まえたうえで自分の考えをまとめる。 <p>・新しい抽象概念を表すカタカナ語について理解を深める。</p>		
観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。		
備考	各学期の定期考査までの学習のまとめりごとに、3つの観点をABCの3段階で評価し、100点法を用いて評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	国語	科目	古典探究	単位数	2
学年	2年	類型	商業科		
教科書(出版社)	古典探究(文英堂)				
副教材(出版社)	古典探究準拠ワーク古文編・漢文編(文英堂)				
授業の概要	1 音読やグループ活動を取り入れ、基礎知識の定着と読解の深化を図る。 2 古文単語や文法などの小テストを適宜行う。				
授業の目標	1 古典の作品を読むために必要な力を身に付け、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める。 2 先人のものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、言葉を通して他者や社会と関わり、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。				
年間学習計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1学期	<ul style="list-style-type: none"> 1 古文に親しむ <ul style="list-style-type: none"> ・猿沢の池の竜の事 ・(参考) 竜 ・大江山 ・古文読解のために① 2 漢文に親しむ <ul style="list-style-type: none"> ・畏饅頭 3 漢文読解のために① 4 ものの伝え方を読み取る <ul style="list-style-type: none"> ・姨捨 5 人物像を読み取る <ul style="list-style-type: none"> ・鴻門之会 ・漢文読解のために② 6 思いを読み取る <ul style="list-style-type: none"> ・源氏の五十余巻 ・古文読解のために②③ 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動や心理、内容の面白さを読み取る。 ・「竜」と読み比べ、それぞれの特徴を整理することを通して古典を多面的・多角的な視点から読み取る。 ・和歌の表現技法について確認し、内容を正しく把握する。 ・用言の用法を身に付ける。 ・訓点のきまりを身に付ける。 ・出典を読むことで故事成語の意味を正しく理解し、漢文の文体や表現に慣れるとともに、古典の変遷について理解する。 ・否定・疑問・反語の句法の知識を身に付ける。 ・和歌に表現された人物の思いを把握し、物語の展開を理解する。 ・『史記』の豊かな表現を味わい、登場人物の考え方・心情を読み取る。 ・使役・受身・假定・比較・選択の句法の知識を身に付ける。 ・日記の特徴を踏まえて、作者の心情の変化を捉える。 ・助動詞、敬語のきまりを確認して理解を深める。 		
	2学期	<ul style="list-style-type: none"> 1 漢詩の世界を味わう <ul style="list-style-type: none"> ・鹿柴、送夏目漱石之伊予、過故人莊 ・登高 ・漢文読解のために③ 2 探究の扉 今に生きる漢詩 <ul style="list-style-type: none"> ・見方・考え方を広げる ・大事を思ひ立たん人は ・ゆく河の流れ ・古文読解のために④ ・論語 ・漢文読解のために④ ・孟子 ・(参考) 論語と算盤 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢詩の形式を理解し、作者の人生観や心情を読み取り、情景を踏まえて的確に現代語訳する。 ・漢詩のきまりを理解する。 ・現代の生活とのつながりを把握する。 ・作者の人生についての思索、生き方についての考えを読み取る。 ・助詞の知識を身に付ける。 ・学問・人生・人間・社会に対する考え方について理解を深める。 ・限定・抑揚・累加・比況・願望・詠嘆の句法の知識を身に付ける。 ・孔子・孟軻の考え方と現代社会との関わりについて考える。 		
	3学期	<ul style="list-style-type: none"> 1 人間関係を読み取る <ul style="list-style-type: none"> ・能登殿の最期 ・古文読解のために⑤ 2 文化について考える <ul style="list-style-type: none"> ・歌故に命失ふ事 ・和歌の流れと広がり ・古文読解のために⑥ 3 社会に対する考えを深める <ul style="list-style-type: none"> ・万葉集 ・浅茅が宿 	<ul style="list-style-type: none"> ・軍記物語の特徴を理解する。 ・語句の識別を通して、古典文法の理解を深める。 ・登場人物の行動と心情を読み取り、それぞれの人物像を理解する。 ・和歌の表現の特色を理解し、内容を的確に読み取る。 ・和歌の歴史や修辞技法について理解する。 ・登場人物の心情を読み取り、作品の展開を理解する。 		
観点別評価	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度		
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。		
備考	各学期の定期考査までの学習のまとめりに、3つの観点でABCの3段階で評価し、100点法を用いて評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2
学年	2年	類型	商業科		
教科書(出版社)	明解 歴史総合 (帝国書院)				
副教材(出版社)					
授業の概要	近現代を中心に、特に世界史の動向と日本との関わりを重視した歴史学習を行う。多くの事象を理解するだけでなく、先人が残した資料を読み解きながら、現在の社会や文化に歴史的営みがいかに影響を及ぼしているか考察する。				
授業の目標	日本と世界の近現代史の基本的な事象を学び、多様な文化や価値観、様々な社会のあり方を理解するとともに、グローバル化する社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成に必要な公民としての資質・能力を育成する。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	1部 歴史の扉 2部 近代化と私たち 1 近代化への問い 2 結びつく世界と日本の開国 3 国民国家と明治維新 4 近代化と現代の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> 歴史における資料の重要性と適切な読み解き方について理解する。 18世紀のアジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多角的・多面的に考察し、表現する。 欧米の市民革命や日本の明治維新や大日本帝国制定など国民国家が形成される過程を理解する。 列強の帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響を多角的・多面的に考察し、表現する。 		
	2 学期	3部 国際秩序の変化や大衆と私たち 1 国際秩序の変化や大衆化への問い 2 第一次世界大戦と大衆社会 3 経済危機と第二次世界大戦 4 国際秩序の変化や大衆化と現代の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> 国際秩序の変化や大衆社会に関する資料を分析し、資料を読み取った情報をまとめたりするなど表現する。 第一次世界大戦やソヴィエト連邦の成立など国際社会の変容を理解し、大衆の政治参加や大量消費社会成立の歴史的意義を、資料を通して考察する。 世界恐慌やファシズムの台頭が第二次世界大戦の展開にどのような影響を及ぼしたのか理解する。 第二次世界大戦後の国際社会の変化と日本の関わりを資料を通して考察し、表現する。 		
	3 学期	4部 グローバル化と私たち 1 グローバル化への問い 2 冷戦と世界経済 3 世界秩序の変容と日本 4 現代的な諸課題の形成と展望	<ul style="list-style-type: none"> グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。 冷戦後の国際社会の変容と諸問題について、資料をもとに考察し、今後の世界秩序のあり方を展望する。 		
観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から理解する。 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	歴史の変化に関わる事象の意味、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題の解決に向けて構想したりすることができる。	知識及び技能、思考力、表現力を粘り強く身に付けようとしている。 歴史に関わる諸事象について、平和で民主的な社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に解決しようとしている。		
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	公民	科目	公共	単位数	2
学年	2年	類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	新版 公共 (数研出版)				
副教材(出版社)					
授業の概要	教科書に沿って、現代の諸課題の概念や理論について理解する。概論だけでなく、時事的トピックも扱いながら現代社会の諸課題の解決へ向けた認識を深める。				
授業の目標	人間と社会のあり方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の優位な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代思想 第2節 現代の諸課題と倫理 第5章 現代の経済社会 第1節 経済のしくみと市場	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に参画する自立した主体とは、様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見出すことに向け、先人の知恵や取り組みなどを踏まえ、行為者自身の人間としてのあり方生き方について探求することが重要であると理解する。 ・公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解する。 		
	2 学期	第2節 財政と金融 第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現 第3章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原理 第2節 日本社会の基本原理 第4章 現代の民主政治 第1節 日本の政治機構 第2節 民主政治の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化が進むなかで、財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。 ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることを理解する。 ・よりよい社会は、憲法の下個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。 		
	3 学期	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向 第2節 国際政治の課題 第3節 国際経済の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・主権国家が並び立つ国際社会がどのように成り立っているのかを理解する。また、国際社会や国家主権について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・経済がグローバル化するなかで、貧困や格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきかを考える。 		
観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。		現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	数 学	科 目	数 学 A	単位数	2
学 年	2 年	類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	最新 数学 A (数研出版)				
副教材(出版社)	パラレルノート 数学 A (数研出版)				
授業の概要	場合の数と確率では、条件つき確率まで学習する。整数の性質ではユークリッドの互除法を使い、応用問題にも対応できるように学習する。図形の性質は平面の性質から空間の性質を考えられるように学習する。				
授業の目標	数学では自ら考え、かつ実際に計算や推論をしないと数学の考え方が身につかない。例題から練習問題を通して、応用問題にも、強いられてするのはなく、数学のもっている面白さにつられて自然に挑戦する態度を身に付ける。				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学 習 目 標		
	1 学 期	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 確率	<ul style="list-style-type: none"> ・樹形図などを利用した個数の数え方について学び、また、和の法則、積の法則が成り立つのはどのような場合なのかを理解し、各場合に適切な応用ができるようにする。独立試行の典型的な例であり、最も重要な例でもある反復試行の確率を理解する。このとき、組合せを用いることを理解する。 ・具体例を通して、条件付き確率と乗法定理の考え方を理解する。 		
	2 学 期	第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質 第2節 円の性質 第3節 作図	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形の内角の二等分線と比の定理を理解する。三角形の重心、外心、内心の関係を理解する。 ・チェバの定理、メネラウスの定理を理解し、それを活用できるようになる。 ・円の接線と弦のつくる角の定理を理解する。方べきの定理を理解する。2つの円の関係を理解し、その共通接線に関する問題に活用できるようになる。平行接線の作図やその応用ができるようになる。 ・空間における直線や平面の位置関係について理解する。多面体の性質を理解する。 		
	3 学 期	3章 数学と人間の活動 1 約数と倍数 2 1次不定方程式 3 記数法 4 座標の考え方 5 ゲームパズルの中の数学	<ul style="list-style-type: none"> ・整数の性質を利用し、倍数の判定の仕方を学び、その方法を習得する。素因数分解を利用した最大公約数、最小公倍数の求め方を理解する。ユークリッドの互除法によって2つの数の最大公約数を求め、不定方程式の1つの整数解を求められるようにする。2進法で表された数を10進法に直し、また、その逆をできるようにする。 		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	場合の数の性質、図形の性質と確率について基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。		不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力を身に付けている。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2
学年	2年	類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	新編 生物基礎 (数研出版)				
副教材(出版社)	スタディアップノート 生物基礎 (数研出版)				
授業の概要	教室での学習活動や、実験・実習作業による探究活動を通して、事物・現象について科学的な考察力や知識を習得する。				
授業の目標	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解を深め、科学的な見方や考え方を養いながら、科学に対する興味・関心を高める。				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学 期	序章	<ul style="list-style-type: none"> 生物基礎で学習する内容の概要を把握し、探究活動とは何かについて理解する。 生物の共通性と多様性について学習し、細胞の構造や呼吸、光合成について理解を深める。 遺伝子の本体であるDNAの構造や遺伝情報について理解を深める。 生命現象におけるタンパク質合成のしくみについて学習する。 		
		第1章 生物の特徴			
	2 学 期	第2章 遺伝子とのはたらき	<ul style="list-style-type: none"> 多細胞動物の体液は、細胞にとっての環境(体内環境)であることを理解する。また体内環境がほぼ一定に保たれているしくみについて理解を深めながら、循環系・腎臓と肝臓の構造とはたらきや自律神経系と内分泌系、免疫のしくみについて学習する。 植生について、その構造や遷移について学習する。 		
第3章 ヒトの体内環境の維持					
3 学 期	第4章 植生の多様性と生態系	<ul style="list-style-type: none"> 地球上のバイオームの分布や、バイオームの種類と気温・年降水量の関係について理解する。 生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。また、地球レベルの環境問題を取り上げながら、自然環境の保全が大切であることを理解する。 			
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	<p>学習内容について理解を深め、適確に考察することができる。</p> <p>観察実験で得られたデータをもとにして関連する知識を整理できる。</p> <p>実験器具の操作やデータ処理を適切に行うことができる。</p>		<p>簡単な仮説をあげ、その処理実験と対照実験を考えることができる。</p> <p>生物の多様性と共通性を理解し、適切に表現することができる。</p>	<p>身近な自然事象について興味と関心をもちながら、積極的な態度で授業に取り組むことができる。</p> <p>実験計画に沿った観察・実験の計画を具体的に立て、予想される結果と実際の結果の検証を行うことができる。</p>	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	保健体育	科目	体育	単位数	2
学年	2年	類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	現代高等保健体育(大修館書店)				
副教材(出版社)	現代高等保健体育ノート(大修館書店)				
授業の概要	心と体のバランスを整えながら、自分の体力や体調に合わせた授業への参加を実践できるようにします。自分や仲間の健康・安全を確保した活動の中で、それぞれの課題を見つけてその解決に取り組み、技能の習得段階に応じた内容の練習や試合を考えながら進めていきます。また、公正や協力、責任などの態度の育成を目指し、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育成します。				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 各種の運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わいながら、さまざまな技能が身に付けられるようにします。 2 運動における競争や協働の意味を正しく理解し、自己や仲間の課題を解決していくために必要な態度や能力を養います。 3 健康や安全を確保し、継続して運動に親しむことができるようにします。 				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学 期	<ol style="list-style-type: none"> 1 体づくり運動 各種体操、集団行動、補強運動及び長距離走など 2 選択Ⅰ バドミントン、テニス、卓球及び柔道から1つ選択 3 体育理論Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体力や体調に合わせた運動を継続して行います。 ・基本的な集団行動を学び、日常生活の中に役立てていきます。 ・仲間と協力したウォーミングアップを通して、体や心の状態に気づきます。 ・基本的な用具の操作やボール操作を身に付けます。 ・自分たちのレベルに合わせたルールを考えながら、仲間と協力して簡易ゲームで勝敗を競います。 ・技の名称や使い方を覚え、基本的な技を使った攻防をできるようにします。 ・健康・安全を確保して活動します。 ・運動、スポーツの学び方について学びます。 		
	2 学 期	<ol style="list-style-type: none"> 4 選択Ⅱ ソフトボール、バレーボール及びハンドボールから1つ選択 5 選択Ⅲ サッカー及びバスケットボールから1つ選択 6 体育理論Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な用具の操作やボール操作を身に付けます。 ・自分たちのレベルに合わせたルールを考えながら、仲間と協力して簡易ゲームで勝敗を競います。 ・作戦や状況に応じた技能で仲間と連携してゲームを展開します。 ・健康・安全を確保して活動します。 ・運動、スポーツの学び方について学びます。 		
	3 学 期	<ol style="list-style-type: none"> 7 陸上競技(長距離走) 男子 3000m と女子 2000m の記録測定 8 体育理論Ⅲ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペースを調整しながら長い距離を走ることで体力を高め、自己記録を更新できるように挑戦します。 ・運動、スポーツの学び方について学びます。 		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	<p>運動の楽しさや喜びを深く味わうために自ら進んで運動しようとしている。</p> <p>公正・協力・責任などの社会的態度が身に付いている。</p>		<p>自分や仲間の体力や学習段階に応じた課題を見つけ出している。</p> <p>課題解決を目指し、工夫している。</p> <p>自分やチームで考えたことを他者に伝えることができる。</p>		<p>体づくり運動の行い方や、さまざまな運動の技能、ゲームの進め方が身に付いている。</p> <p>自分や仲間の健康・安全を守るための知識を理解し、実践している。</p>
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1
学年	2年	類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	現代高等保健体育(大修館書店)				
副教材(出版社)	現代高等保健体育ノート(大修館書店)				
授業の概要	保健の見方・考え方を働かせながら、合理的、計画的な学習過程を通して、日頃の生活の中で自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための実践力を身に付けていきます。				
授業の目標	1 自他や社会の健康・安全のための課題を解決するために、思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養います。 2 健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養います。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	3 生涯を通じる健康 (1) ライフステージと健康 (2) 思春期と健康 (3) 性意識と性行動の選択 (4) 妊娠・出産と健康 (5) 避妊法と人工妊娠中絶 (6) 結婚生活と健康 (7) 中高年期と健康	・生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理や環境づくりが関わっていることについて理解します。 ・生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現します。		
	2 学期	(8) 働くことと健康 (9) 労働災害と健康 (10) 健康的な職業生活 4 健康を支える環境づくり (1) 大気汚染と健康 (2) 水質汚濁、土壌汚染と健康 (3) 環境と健康にかかわる対策 (4) ごみの処理と上下水道の整備 (5) 食品の安全性 (6) 食品衛生にかかわる活動	・労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理や安全管理をする必要があることを理解します。 ・人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあること、その防止や改善のための対策をとる必要があること、また環境衛生活動のしくみについて理解します。 ・食品の安全性を確保することの重要性や食品衛生活動のしくみについて理解します。		
	3 学期	(7) 保健サービスとその活用 (8) 医療サービスとその活用 (9) 医薬品の制度とその活用 (10) さまざまな保健活動や社会的対策 (11) 健康に関する環境づくりと社会参加	・保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することや、医薬品の特性や使用方法について理解します。 ・健康を支える環境づくりについての課題を発見し、その解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現します。		
観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。		生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				